

14：05 - シンポジウム① 『PXE6 期生と振り返る養成講座』

座長：鶴巻温泉病院院長 出江 紳一

国民健康保険小松市民病院 副院長・（外科）医師 塚山 正市

PXE 講座が私に与えてくれたもの

抄録：

当院は PX 活動に積極的に取り組んでおり、一職員として理解を深めるために PXE 講座を受講した。PXE 講座での大きな学びはペルソナを通じて、患者の真の目標を理解し、医療もそれに寄り添うことが必要であると認識したことである。患者本位に立つ事は医療者にとって大変と思われがちであるが、そこにこそ EX 向上があると思われる。多忙で苦しむ仲間たちを救うためにも、PX から EX へと、同じ労働負担をやりがいに変える術を共有したい。EX 向上は組織エンゲージメントにつながり、医療安全、経営改善、人材確保と良好な結果を我々にもたらすと思われた。

国家公務員共済組合連合会 横浜南共済病院 看護師 家高 聡子

抄録：

シンポジウム準備にあたり、受講時の課題を見返しました。第 5 回の対話に関する課題には理解が追いつかない部分もありましたが、自分なりに向き合った経験は現在の活動につながっていると感じます。本稿では、受講の動機、受講後に意識していること、現在の取り組みを述べます。

株式会社モレーンコーポレーション 代表取締役社長 草場 恒樹

PX の考え方がお客様（医療従事者）との「関係の質」を改善

抄録：

弊社は医療機関向けに医療関連感染を防止するための製品および、コンサルティングを提供している企業です。PXE 養成講座を経て、これまで実施してきた感染対策のための教育啓発活動の幅に大きな変化が生じ、医療従事者の方々との「関係の質」が高まりました。患者さんの視点、その経験価値や、患者中心といった軸が加わることによって、お客様との共感性が増しました。今回はその経験を少し、ご紹介させていただきます。

14：05 - 講演① 『PX 研究会の研究助成金の取り組みについて』

CAPS 株式会社 クリニック部 データ分析グループ 近藤 菜津美

抄録：

CAPS グループでは、PX 研究会の助成を受け、小児科クリニックにおける医療従事者間のコミュニケーションの質と患者の診療体験の関連について、それぞれの質や体験の評価方法の検討を含む 4 テーマの調査を計画している。本報告ではこのうち、調査中である 3 テーマについて、開発プロセス、予備調査の結果、今後の検証計画を報告し、課題と展望を示す。

15：00 - 講演② 『超高齢化社会を支える！～AI×コーチングが実現した PX・EX の好循環～』

社会医療法人清風會 日本原病院 クオリティマネジメント部課長 平尾 由美

抄録：

高齢化が進む中、認知症患者のケアの質向上と、医療現場の負担軽減が大きな課題です。本発表では、AIを使った医療のデジタル化（DX）と、スタッフの育成（コーチング）を組み合わせ、患者（PX）と従業員（EX）の経験価値を高めることを目指した取り組みをご紹介します。また、新たなシステム導入により、未来の PX 改善と持続可能な PX、EX への期待についてお伝えできればと思います。

15：15 - 特別講演① 『PX、構築できません！治療アプリが直面した制度や慣習の edge』

株式会社 CureApp 開発統括取締役・医師 鈴木 晋

抄録：

治療アプリは医師が処方し患者が利用することで治療効果を持つソフトウェアである。医薬品と同じく治験を行って治療効果を証明したもののだが、患者体験(PX)という点では医薬品と大きく異なる。治療アプリはそれがどのような文脈で紹介され処方され、継続支援されるかということによって利用状況が左右され、治療効果にも影響しうる。本発表ではその文脈の最適なデザインをする際の、制度や慣習の edge について論じたい。

15：45 - 特別講演② 『病院における DX の現在とこれから。～病院に必要な DX を実現するための処方せん～』

合同会社メディカルソリューションパートナー代表 兵藤 敏美

サマリ：

昨今、様々なところで医療 DX という言葉を耳にします。保険医療を守るための国が求める医療 DX、自院の職員を守るための病院 DX、DX といっても目的が違うため同じアプローチで実現しようとするのは無理が生じがちです。今回、実際お手伝いした事例をふまえて病院のデジタル化ではなく、トランスフォーメーションするためにいかにデジタルを活かすか、そのポイントについてお話させていただきます。